第１回子ども・子育て会議　会議録（要点筆記）

開催日時　平成２８年６月２９日（水）午後７時～8 時 59 分
開催場所　南砺市福野庁舎　２階　講堂
出席者氏名：青山喜美子、新敷秀子、伊豆多都子、猪谷亜希子、大蔵博子、蟹野正男、唐嶋田鶴子、河合禄美、北清俊一、木村涼子、蔵田静栄、冨田利通、中田利佳、中道實、西井秀子、長谷川邦子、本多篠依、松永晴義（１８名）
欠席者氏名：齋藤優華、山田清志（２名）
事務局：高田勇（教育長）、豊川覚（教育部長）、宗井由栄子（福光保健センター）、武田秀隆、溝口早苗北島泉、高野あずさ、竹田千亜希（こども課）
傍聴人数：０名

１．あいさつ
教育長　こども課が教育部に移管され、今回から教育長、教育部長も参加することとなった。南砺市にいる子どもたちの笑顔、南砺市に住む保護者が安心して子育てができる、子どもや保護者の周りにいる地域のみなさんにも笑顔が見られる。子ども、保護者、地域のみなさんの笑顔がこの会議の目指すところと思われる。本日の会議で、委員のみなさんから今回の会議の主旨に沿ったご意見をいただければと思う。

２．会長あいさつ
会長　昨年度と異なるのは、こども課が教育委員会へ移管されたことであり、幼保一元化や認定子ども園が増加している昨今、保育園、幼稚園、小学校、中学校と切れ目のない一貫した教育行政の実施について期待しているところである。今回は南砺市子ども・子育て支援事業計画の実績と進捗状況等について、みなさんから忌憚のないご意見をお願いしたい。

３．協議事項
事務局　資料の確認　会議の公開について説明。また委員が５名交代となったことについて報告を行う。

会長　最初に協議事項（１）平成２８年度の認可定員と利用定員について。

事務局　子ども・子育て会議の設置の趣旨について説明。資料１に基づき説明を行う。平成２８年度の認可定員と利用定員について説明。
利用定員について、福野ひまわり保育園、福光どんぐり保育園などは定員が２２０名で同じであるが、内訳は園の実情に合わせて異なる。福光どんぐり保育園については、２号認定入園児が１５０名を超えているため、他園と定員が違っている。

会長　今までの事務局の説明での質問について。

副会長　福光どんぐり保育園について、３歳以上児は既に１５０名の定員を超えている。３歳未満児については余裕があるということか。

事務局　児童数は４月１日現在で、表の右側のような現状となっており、余裕はある。

会長　　次に平成２７年度の利用実績について。

事務局　　続いて資料２について説明。子どもの数の推計について、０歳児の数が、当初の見込に比して、実績が増えている。このことから子育て支援施策の効果が少しずつ出ているのではないかと思われる。

利用者支援事業というのは、平成２７年度に保健センターで実施しているすこやか相談事業である。

　延長保育の利用実績が増えたのは、新制度への移行に伴い、朝７時から８時、夕方４時から６時の保育も延長保育とみなされるので、増加している。

放課後児童クラブの実績については、新制度の開始に伴い、対象者を小学校６年生まで拡大したことと、クラブを１か所新規開設したことの影響と考えられる。

　ｐ７の一時預かり事業については、１号認定は幼稚園における長期休業時の子どもの預かり等、２号認定については、認定こども園への移行に伴い、全てが保育の中に含まれるようになったため、県外等から２号認定の資格を持った子どもの一時預かりの数である。上記以外というのは、里帰り出産に伴う一時預かり、母のリフレッシュや病院の受診等にかかる子どもの一時預かりの数である。

　ファミリーサポートセンター事業については、放課後児童クラブの迎えに間に合わない場合に放課後児童クラブ等で保護者が迎えに来るまで対応するものであり、その利用件数が増えてきている。

会長　　資料２における質問について。推計よりも増えている延長保育について商工会の立場からはどうお考えになるか。

A 委員　　今回初めての会議の参加なので、今の段階で意見を述べるのは難しい。

B 委員　　子どもの人口の推移について、合計特殊出生率は出ているのか。

事務局　　合計特殊出生率については、計算方法が複雑であることもあり、平成２７年度は算出していない。出生数そのものは当初計画推計値よりも微増している。

会長　　出生率について、「統計から見たとやま」の資料によると、人口１０００人あたりに対して、平成２５年度では全国は８．２、県は７．３、南砺市は６．８である。富山県の出生率の低さについて、女性の就業率、共働き率は北陸３県いずれも高いが、出生率は福井県よりも低い。同居家族の問題もあるのか。

C 委員　南砺市の産科や小児科の問題もあるのでは。子どもを産んでもどこへ行けばいいのかわからないという声もある。育児休業制度の充実など、安心して南砺市で出産し、子育てができるような環境づくりが必要と思うが。

会長　少子化をどうくい止めたらいいのか。福井県には中小企業が多いことも女性の働き方の観点で何か関係はあるのかと思われる。

A 委員　全国の企業で多くは中小企業であり、福井県に特別中小企業が多いということではないと思われる。

会長　福井県は６５歳以上の就業率も高い。家に高齢者がいて、子どもを見ているわけではないと思われる。

副会長　早朝保育の人数も多い。子どもの保育時間は８時間で収まっているのか。特定の人への労働時間の拘束や、家族関係や支援関係、いろいろな要因がある。子どもばかりが長時間同じ場所にいなければいけないことについて、何か考えていくことが必要なのではないか。

事務局　新制度において午前８時から午後４時までの保育、保護者の就労時間が長くなり、保育標準時間の認定児童が多くなっている。保育標準時間は１１時間で午前７時から午後６時となっている。

会長　今すぐ解決できる問題ではないが、そのような子どもの実態があるということをご理解いただきたい。

事務局　補足説明。前年度との変更点について。福光東部かがやき保育園の支援センターについては、きっずらんど内から移転したもの。放課後児童クラブについては、旧吉江保育園内にげんきっ子クラブが新設された。

D 委員　放課後児童クラブの受入については充足できているか。

事務局　施設を増やしているが、利用希望者は増加している。利用対象も６年生まで拡大したが、受入は１年生から３年生が中心であり、新規での５、６年生の受入はなかなか難しい。

C 委員　中部っ子クラブ、東部っ子クラブいずれもいっぱいな状態と聞いている。

会長　放課後児童クラブの利用見込数については、この計画策定の前に実施したニーズ調査では高学年は塾や習い事に通っている子どもが多いので、放課後児童クラブに入りたいというニーズはそこまでないのではないかという見解であった。

次に、協議事項３　次世代育成支援施策展開の進捗状況について。

事務局　次世代育成支援施策と子ども・子育て支援計画との関係について説明。評価については、A～Dの４段階で評価を行う。今回は評価がC、Dのもの、こども課が中心に実施している施策について説明する。

会長　今までの事務局の説明での質問について。

E委員　保育園の園解放に関連して、通園していない未就園の児はどのぐらいいるのか。未就園の児の保護者に対して、保育園や幼稚園へ入れない理由等について何かアンケートは実施しているのか。

事務局　家庭に保育者がいる子どもだと理解しており、特に実施はしていない。低年齢児の入園が増加しており、小さいうちはできるだけ家で見るという、家庭での保育の見直しが必要だと思っている。

F委員　不登校の子どもの数と、いじめの対策についての取り組みは。

事務局　いじめについては、学期毎に子どもと保護者を対象にいじめに関するアンケートを実施している。いじめの定義は、本人がいじめと感じればいじめとしており、３年前からは増加している。LINE等のSNS上のいじめ、嫌がらせのようなものも増えている。今起こっているいじめについては収束に向かっていると認識している。

また不登校については、いろいろな問題が複合、重なり合っており、中学校の方が少し人数が多い。

C委員　保健室登校の子どもの数は。

事務局　不登校とは、病気ではないが３０日以上欠席が続く状況を指す。教室に入れなくても適応指導教室に通う子ども、保健室や相談室に通う子どももいる。家から全く出られない子どもはおらず、教室に入れない子どもが多いのは事実である。

平成２６年度、２７年度で小学校での不登校は増えており、中学校では減少している。

G委員　出生祝金について、４世代同居の加算については何か考えはあるか。

事務局　今のところ考えていない。４世代同居は３世代以上同居としてとらえている。

C委員　資料３　P14のシルバー人材センターが実施している児童支援サービスに該当するのはどんな児童か。

副会長　　ファミリーサポート事業と同じものか。

事務局　　ファミリーサポート事業と同様である。児童支援サービスについては、出生時等に配布する子育て支援ガイドに記載されているが、保育の一時預かりの充実や、ファミリーサポート事業の利用により、需要はそこまでないものと思われる。

副会長　　例えば、城端に住んでいる子どもが城端線にのって福光の習い事に連れて行くためのもの。

会長　　ファミリーサポート事業の協力会員の数は。

事務局　　概ね９０名程度。

会長　　協力会員のなり手が少ないことが他の市でも問題になっている。

事務局　　現在意向調査を実施しているところである。福野や福光地域の会員は多いが、その他の地区の会員は少ないので、周知を図り充実に努めたい。

会長　　この評価というのは、事務局が行った評価である。委員のみなさんの客観的な評価をいただき、より建設的な意見をお願いしたい。この会議の目的のなかに、事業の点検等も含まれる。事務局の評価について、ご意見をいただきたい。

F 委員　　ファミリーサポートは顔が見えないことが不安に思う。協力会員の顔が見えたらいいと思うが。

事務局　　依頼があった時点で、ファミリーサポートセンターの事務局を介して会員と利用者の事前の打ち合わせは行っている。

G 委員　　この評価について、事務局が総合的なデータに基づいて評価されているものと認識している。さらに評価をここにいる委員に求めるのは難しいことではないかと思われるが。

会長　　委員の使命でもあるので、評価についてみなさんの意見をうかがいたいということである。

H 委員　　子育て講座について。市の事業を活用し講師の手配をお願いしたが、謝礼を当日講師にお渡しできないことが失礼に当たると思い、今年度この市の事業は利用しなかった。もう少し違った方法で何か対応できないものか。

E 委員　　謝礼は必要なものなのか。現金でなくてもいいのではないか。

事務局　　市の事業において、講師謝礼を現金で支払うことはない。謝礼の額も教育委員会内での基準で決められている。

会長　　検討事項もまだ半分残っているが、この先の進め方について。説明が必要な部分についてのみ、事務局から説明するという方法でもいいか。

G 委員　　まだ検討事項も多く残っており、それぞれ大事な事業である。近々もう一度この会議を開催するというのはいかがか。

事務局　　もう少し時間を延長し、協議をお願いしたい。
資料３　Ｐ２５から以降、評価が C,D のものを中心に説明を行う。

I 委員　　保育士の資格がなくても、保育園で働くことはできるのか。

事務局　　保育士の配置基準は、国が示している。０歳児なら子ども３人に保育士１人をつけるという決められた基準はクリアできているので、保育に関してある程度知識を有する方が保育補助として対応することは可能である。

I 委員　　障害ではなくてもうまく適応できない小学生が増えている。気になる子に対して、保育士資格がなくても子どもの育ちを手厚く支援し、子どもたちがいろいろなことができるようになって、小学校へ移行してほしい。

会長　　保育園だけではなく、小学校、中学校でも配慮の必要な子どもが増えている。
地域でも特別支援学校ではなく、地域の学校へ行く子どももいる。保育園等と小学校との連携も手厚く行われているが、保護者の意向も尊重していく必要があり、人員の確保が重要である。

副会長　　人を増やすばかりではなく、子どもたちの育ちの中でどのような空間や人間関係が必要なのかを考えてほしい。安心して落ち着いた育ちへの移行を望む。

会長　　保育の質の向上が必要である。園では多忙で研修にもなかなか参加できないのが現状で、保育士の資質の向上というところまでなかなかいかない。子育ての環境が整わないと、南砺市で子育てをしようという気持ちにはなかなかなれないのではないか。

J 委員　　子どもは子ども同士で育ちあっていく。園の中の人数が多いと子ども同士、大人の人間関係も複雑になってくるので、ただ受入を増やせばいいということではないと思う。保護者は保育料の減免など、金銭面の充実に関心を寄せている。
預かり保育の人数について、保護者自身が保育の時間が選べるようになり、子どもの思いで、遊びたくて早い時間に園に来る子どもや、就学を見据えて預かり保育の早い時間に来る子ども

もいる。その背景には家庭のいろいろな事情があり、数字の増減だけで判断できることではないと思う。

福野地域の幼保小連携のレベルがとても高く、どの地域においても同じレベルが維持できればいいと思う。

会長　　意見は十分に出尽くしたとは言えないが、時間も迫っているのでこれで終了としたい。

G 委員　　これだけの多くの重要な案件を取り扱うのであれば、もっと余裕のある時間設定をお願いしたい。

会長　　今日は貴重な意見も多く出ていた。意見を吸い上げて、今後の施策にいかしていただきたい。

７．閉会のあいさつ

副会長　　この子ども・子育て支援事業計画は、子どものためのものであり、委員や事務局のためのものではないと思っている。子ども一人一人に対して十分な手だてがなされているのか、確認していくことが必要と思う。

８：５９　終了